

山田寺跡(奈良県桜井市)

やまだでら

この広い一帯が山田寺跡/蘇我倉山田石川麻呂(そがのくらのやまだいしかわまる)の発願/伽藍の北側から南方向を見る



左手に立っている説明板/「特別史跡 山田寺跡」とある



7世紀の建立

山田寺は、右大臣・蘇我倉山田石川麻呂が発願した。飛鳥時代を代表する寺院の一つです。記録によれば、六四一年に着工し二年後には金堂が完成したものの、六四九年に石川麻呂が政争で自殺したため造営は中断しました。その後、本格的に造営が再開され、六七六年に塔が完成、六八五年には、現在興福寺に仏頭が残る本尊丈六仏の開眼供養が行われました。

一九七六年以降の発掘調査では、東西一一・八m、南北一八・五mの寺域に、南門・中門・塔・金堂・講堂が南北一直線に並び、回廊が塔と金堂を囲む伽藍配置であることが明らかになりました。また、東面回廊が倒壊したままの状態で見つかるなど飛鳥時代の建築様式を知る上で貴重な発見があいつぎました。

山田寺跡

磐余の道・キーワード

東面回廊

山田寺は、大化の改新の右大臣、蘇我倉山田石川麻呂が建立した大寺です。

この寺にあった丈六薬師仏(仏頭)は、現在奈良市興福寺宝物館に収納されています。

又、史跡整備に伴う発掘調査では、「東面回廊」が倒壊したままの状態で見えされており、この連子窓は、山田寺跡から約300m西にある飛鳥資料館に展示されている。

大和の古道紀行
桜井市観光協会

前方の白い表示板のところに上記の東面回廊が横に走っている/回廊の向こうには金堂跡(右手)、塔跡(左手)の復元基壇が見える



東面回廊

山田寺では、塔と金堂のある中心区画の四方を回廊が囲んでいました。東面回廊の発掘調査では、建物全体が屋根瓦もろとも西向きに倒れた状態で見つかりました。蓮弁を彫刻した礎石や基壇の縁石がほぼ完全に残っており、東面回廊は南北二十三間八十六・九m、基壇幅六・四mの規模であったことがわかりました。また、柱や連子窓など多くの建築部材や表面に白土を塗った壁土が残っており、古代の建築技術を知る貴重な資料となりました。北から十三・十四・十五間目の部材はとくによく残っていたことから、保存処理をほどこしたうえ元のかたちに組み上げ、飛鳥資料館で展示しています。



東面回廊跡（東から）

東面廻廊跡を南側から北方向に見たところ



これは南東側から見た伽藍全体で、正面に塔跡の基壇（標柱が立っている）、その右手に金堂跡の基壇が見える



南側から南門、中門、塔、金堂、講堂と南北に一直線に並ぶ中心軸を見る/正面のやや左手に塔跡に立つ標柱が見える



西側から塔跡(右手)、金堂跡(左手)の基壇を見たところ



南側から塔跡の基壇を見る/標柱に「史蹟 山田寺址」とある



塔跡の基壇(手前)と金堂跡の基壇(後方)



塔跡の基壇



金堂跡の基壇



金堂跡の基壇と手前の礼拝石/この金堂の前で石川麻呂が身の潔白を証明するために自害して果てたという



表示板と礼拝石のレプリカ



金堂と礼拝石

山田寺の跡には、建物の基壇や礎石が地上に残っており、発掘調査をする前から塔の北に金堂があったと考えられていました。発掘の結果、金堂の基壇は、東西二十一・六m、南北十八・四m、高さ約二mの規模で、周囲には板石を敷き詰めた犬走りがめぐっていたことがわかりました。さらに、塔と金堂を結ぶ参道の中ほどでは石灯籠の台石が、また金堂の南面中央では犬走りに接して東西二・四m南北一・二mの「礼拝石」と考えられる板石が見つかりました。礼拝石を金堂の前面に据えるのはめずらしく、ここに原寸大に復原して展示しています。



金堂跡と礼拝石、石灯籠台石（南から）

北側から金堂跡の基壇(手前)とその向こうに塔跡の基壇を見る



金堂跡から塔跡の基壇を見る



北西側から伽藍全体を見たところ



その右手に西側の回廊の基壇を見る



左手は北側の回廊の基壇/向こうに礎石が見える



北側の回廊の礎石のレプリカ



ここは東側の回廊の外にある宝蔵跡



宝蔵

この場所の発掘調査で四
個四列に並んだ礎石が見つ
かり、高床の蔵のような建
物があったことがわかりま
した。また、経軸や仏具を
含む多くの遺物が出土した
ことから、この建物は仏具
等を納める宝蔵
蔵であったと
考えています。



銅板五尊像



宝蔵跡（東から）

参 考

飛鳥資料館にあった山田寺の塔心礎のレプリカ



山田寺の塔心礎

1976年の発掘調査で地下1mから見つかった山田寺の塔心礎の模造である。巨大な花崗岩で作られ、直径約180cm、厚さ84cmあり、この上に塔の心柱が建てられた。中央に舍利孔があり、「上宮聖徳法王帝説」の裏書によれば、天武天皇2年(673)に舍利8粒をいれた舍利容器と多くの珠玉が埋納されたことがわかるが、盗掘にあい舍利容器などは失われていた。心礎は現在埋め戻されている。

さて、ここは講堂跡の一角に建つ現在の大化山山田寺



ここにも「史蹟 山田寺跡」の標柱が立っていた



消えかかっていて図は読めない



山田寺遺址
大七の改新に當り寺を築き、またしこ
藤ヶ倉山田石川が三が寺村天皇十
三年御に建立と計画し、堂塔を築し
天徳天皇七年、丈六仏を鑄造し、同
十四年御に開帳供養を行い、元式十

これは大化山山田寺の観音堂/右端の赤い屋根の囲いの中には雪冤碑(せつえんひ)がある



これが雪冤碑/石川麻呂の子孫が、祖先の名誉回復のために建立されたという



参考ホームページ

<http://www.bell.jp/pancho/asuka-sansaku/yamadadera.htm>

<http://kankodori.net/japaneseculture/site/036/index.html>

http://www.uchiyama.info/oriori/shiseki/shiseki/yamada_ji/

<http://sakuwa.com/vw85.html>

http://www.inoues.net/club5/sakurai_seinan.html

